

MOTUL

MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第1戦 筑波
モリワキクラブ レースレポート

ST600クラス

#30 山口 辰也選手 予選 7位 予選タイム: 58sec746
決勝 4位 決勝BEST: 58sec53

ST 600

2008年シーズンを戦った山口辰也選手が今季、モリワキに復帰。しかしモリワキレーシングからではなく、モリワキクラブからの参戦となる。さらに参加クラスはST600と、これまで山口選手が戦ってきたJSB1000クラスではない。

「本来は今年、モリワキエンジニアリングとして全日本に参戦する予定はありませんでした。ですが山口さんがどうしてもモリワキでレースをやりたいと声をかけてくれました。会社としては現在、MD600を中心に動いていることから、全日本に参戦するとしたらモリワキクラブでの参戦という、尊敬する山口辰也さんというライダーを走らせるには申し訳ない体制だったのですが、それでもいいから一緒に戦おうと言ってくれました。その結果が、このような参戦体制となりました」と、モリワキクラブの森脇尚護監督。

モノがない状態から一つ一つ用意しながらの戦いのため、1週間前に行われた事前テストでマシンは完成せず、レース仕様になったのはレースウイーク木曜日の特別走行になってからだった。

木曜日の特別走行はドライコンディションだったが、金曜日のART走行はウエット。そのため、マシンのセットアップは思うように進まず、予選1回目はトラブルもあり、やっとタイムを詰める作業に入ることが出来たのは2回目の予選になってからだった。

そんな状況の中、ベテランの山口選手は着実にタイムを詰め、まだマシンを十分に詰め切れていない状態ながら、58秒746で3列目7番手となった。

決勝日朝のウォームアップ走行でもマシンのセットアップをさらに進め、決勝に臨むこととなった。

気温がまだ上がらず、前日のタイムを上回ることが出来ないライバルたちに対し、山口はこのセッションで58秒850というトップタイムをマーク。決勝への期待が高まった。

朝は太陽が顔を出していたがすぐに厚い雲が上空を覆い、冷たい風が吹き抜けることもあり、非常に肌寒いコンディションとなってしまった。さらには時折、雨がパラパラと落ちてくる、不安定な気候の中でレースはスタートすることとなった。

山口選手はうまくスタートで飛び出し、1周目で4位までポジションアップ。トップグループが58秒中盤でラップする中、予選タイムを上回る58秒中盤と同じペースで走行。6周目には3位までポジションを上げる。そのまま13周目まで3位の位置をキープしていたが、14周目に5位となり、21周目に4位へ戻してそのままチェッカーとなった。

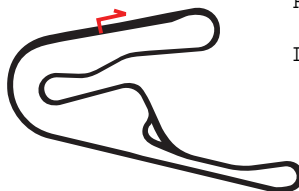
[CIRCUIT DATA]

TSUKUBA CIRCUIT

LENGTH 2,070m

RIGHT TURNS 6

LEFT TURNS 4



MOTUL

TOTAL OF 2 PAGE(S) INCLUDING THIS ONE

NGK
SPARK PLUGS

D.I.D

DESIGN FACTORY

KYB

AFAM

GW

PIRELLI

MOTUL

MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第1戦 筑波
モリワキクラブ レースレポート

ST600クラス

#30 山口 辰也選手 予選 7位 予選タイム: 58sec746
決勝 4位 決勝BEST: 58sec53

MFJ SUPERBIKE
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
ST 600

山口辰也選手

「今シーズンのレースを戦うにあたり、世界への挑戦を視野に入れて考えました。残念ながら世界への挑戦はかないませんでした。来年、世界にチャレンジするための準備の年と今シーズンを位置付け、参戦するための用意に入りました。モリワキからレースを戦いたかったのも、マネージャーの森脇緑さんに相談し、モリワキクラブの尚護監督も手伝ってくれて、開幕戦のレースウィークを迎えることが出来ました。準備不足が最後まで響き、本当は優勝で今シーズンのスタートを切りたかったのですが、4位と表彰台に今ひとつ届きませんでした。ライダーとして今、何をすればいいのかが見えたこともあったので、大きな収穫のあるレースでした。チームには無理なことをお願いし、サポートしていただけて本当に感謝しています。モリワキクラブのチーム員も、尚護監督が『山口をサポートするぞ』と声をかけたことで来てくれて、とてもありがたかったです。皆さん、本当にありがとうございました。この感謝の気持ちはレース結果でお返しします。」

森脇尚護監督

「ドライの走行は木曜日と土曜、決勝日朝のウォームアップ走行だけでした。去年、山口さんはJSB1000で走っていたわけで、ST600のセッティングデータも走りのノウハウもまったくのゼロから組み立て、決勝ではトップグループと同じペースで走り、4位になりました。監督としてよりも、一人のライダーとして、ライダーの技術があればどんな状況でも速く走ることは出来るんだということを学びました。こんな素晴らしいライダーの走りをどれだけ支えられるか自信はありませんが、出来る限りのサポートをしていきたいと思っています。今回もたくさんの応援をいただき、ありがとうございました。次のレースも引き続き応援いただけますよう宜しくお願いします。」



MOTUL

TOTAL OF 2 PAGE(S) INCLUDING THIS ONE